

# 九州歯内療法学会・学術講演会

(日本歯内療法学会協力団体)

第6回学術講演会を開催いたします。多数の方々のご参加をお待ち申し上げます。

## 学術講演 1

### 歯根膜から見えてくるもの

北九州市 牛島歯科医院 牛島直文 先生

歯科領域において、歯根膜組織ほど環境の変化に素早く対応できる多様性に富んだ組織は無く、侵襲を受けると歯根膜細胞の増殖能は約6倍に増えるとも言われている。

Mühlbradtの報告によると、インプラントと天然歯の比較では、噛む力、圧力及び物の厚さを感じる能力において天然歯が優れており、このことは歯根膜腔に張りめぐらされた多数の神経血管による神経筋システムが機能していることを物語っている。このシステムによって天然歯は守られており、歯を残せるかは歯根膜組織をいかに守れるかにかかっている。

本講演では、歯内療法、歯周療法、再生療法、MTM治療、及び移植・再植治療を歯根膜サイドから見つめてみたい。

## 学術講演 2

### それって難治性エンド？ エンドと痛みのリスクヘッジ ～トラブル症例のいくつかのパターンより～

鹿児島市 高見馬場歯科 松下幸誠 先生

歯内療法後も長く続く痛みは、“難治性エンド”と分類されがちである。根管治療の目的は、根尖性歯周炎の予防と治療であり、その結果として疼痛が制御される。しかしながら、根尖性歯周炎の原因は細菌であるという大原則のもと忠実にコンセプトを守った治療を行ったとしても、疼痛制御が困難な症例がまれにみられる。

慢性痛は、「通常の経過あるいは創傷の治療に要する妥当な時間を超えて持続する痛み」と定義され、慢性痛を発症すると炎症を制御できても痛みの完全な消退は困難である。

本講演では、慢性痛へ移行するいくつかのパターンを通して、いわゆる“難治性エンド”を回避する方策をお伝えしたい。

2019年11月24日(日) 13:30～17:00

会場：福岡県歯科医師会館 (福岡市中央区大名1-12-43)

\*参加費：5,000円 (研修医・学生：無料)

(申込不要・参加費は当日会場で申し受けます)

- ・日本歯内療法学会・九州歯内療法学会の会員でなくてもどなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ先：九州歯内療法学会事務局 [kyushuendo@gmail.com](mailto:kyushuendo@gmail.com)

